

# 時代「中世」

今から1000年前から300年前までの様子を紹介します。

・平安時代の山口県は長門国と周防国からなっていました。阿知須町は周防国吉敷郡の西南部に位置し、その西北部は長門国に接していました。

・鎌倉時代は厚東氏が霜降山に霜降城を築城し、この地方をおさめ勢力を伸ばしていました。

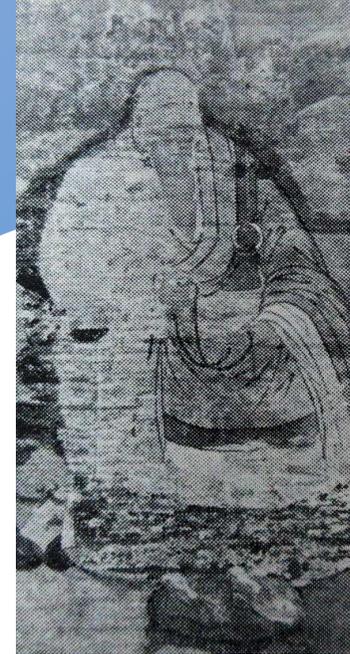
・鎌倉時代になると白松氏が台頭してきて、この地方に根をはり、繁栄していたという記録があります。

・室町時代には大内氏が台頭し、弘世の代に防長統一を果たしました。

・戦国時代、陶晴賢を巖島の合戦で破り、防長両国を統一した毛利元就、隆元親子は豊後の大友氏と対陣していました。この時大友宗麟は大内輝弘を大将として山口へ侵入させ、毛利軍の背後をつく作戦をたて、1563年「大内輝弘の乱」がおきました。大友氏の兵船が白松浦に上陸し、輝弘軍は山口まで向かいました。しかし、山口鴻峯城の攻防戦で破れた輝弘は、防府市富海でなくなりました。

・江戸時代になると阿知須周辺は白松氏が納めていたことから「白松村」と呼ばれていたようです。

ジャンル: 歴史概略



厚東武実氏

防府市富海にある  
茶臼山

